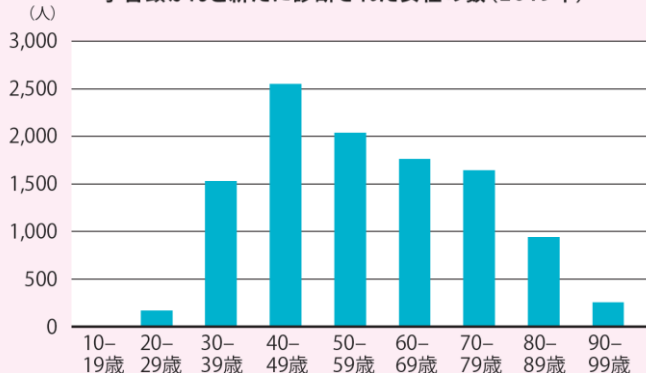




子宮頸がんになる人を減らしたい!!

しんだん
子宮頸がんと新たに診断された女性の数(2019年)



グラフ出典：厚生労働省『小学校6年～高校1年相当の女子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）』2024年2月改訂版

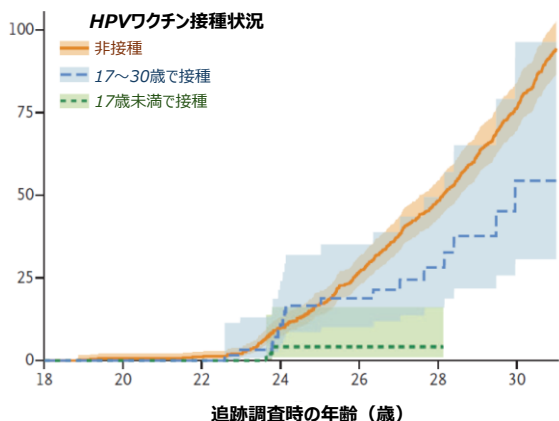
あなた自身や、あなたの周囲に『仕事や家族の世事で忙しいから、自分のことは後回し』と言っている方はいませんか？
20～40代の子育て世代の患者が増えていることから、子宮頸がんを“マザーキラー”と呼ぶ専門家もいます。
あなたと、あなたの大切な人のために、**子宮頸がんから身を守る方法**をぜひ知ってください。

～ 子宮頸がんから身を守る方法は『2つ』 ～

- ① HPVワクチンで感染を予防する(年度年齢12～16歳の女性が公費対象)
- ② 定期的な検診で早期発見・早期治療する(年度年齢20歳から・2年度に1回受診)

子宮頸がんは、**HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染**によって引き起こされます。
HPVは女性の多くが一生涯に一度は感染するといわれる、ごくありふれたウイルスです。
感染してもほとんどが自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。
海外の調査で、17歳より前にHPVワクチンを接種すると、子宮頸がんになるリスクを大幅に減らすとの研究結果があります。
お子さまが将来、**子宮頸がんになるリスクを減らすために、効果的な時期にワクチンを接種**して感染を防ぎましょう。

子宮頸がんの累積発生率(10万人あたり)(スウェーデンの調査)



グラフ出典：Jiayao Lei, Alexander Ploner, et al. N Engl J Med 2020, 383; 14: 1340-1348.

健康を守るためには、自分の体調に関心をもつことが大切です。異常があればすぐに受診するのはもちろんのこと、HPVワクチンを接種していても油断せず、定期的に検診を受けましょう。

「母／娘／姉妹…を誘って行くわ！」など、家族同士で声をかけあって、一緒に検診に出かけるのも素敵ですよ！

20歳になったら、子宮頸がん検診デビュー！

【健康推進課】
大津市がん検診等のご案内



【保健予防課】
HPV(子宮頸がん予防)ワクチンについて

